横浜市立市民病院

〒240-8555　横浜市保土ケ谷区岡沢町 56
TEL 045-331-1961　FAX 045-332-5599

平成30年の横浜市民病院は、新病院の建設が順調に進み、現在診療棟は鉄骨組み立て工事を、管理棟は杭工事が行われています。2020年５月の新病院開院まで、残すところあと１年余りとなり、現在病院全体が一丸となって取り組んでいるところです。

さて平成30年の外科は、消化器外科６人（うち大学ローテート２人）、炎症性腸疾患外科５人（うち大学ローテート１人）、乳腺外科２人（うち大学ローテート１人）のスタッフと２人の後期研修医、２ヶ月毎にローテートする３人の初期研修医で診療を行いました。外科一同、外来、病棟、手術、救急診療と日夜仕事に励んでいます。

さて、外科が消化器外科、乳腺外科、炎症性腸疾患外科の３つに別れてから10年経過しました。2018年の総手術件数は、外科全体で前年を若干下まわり1259例でした。内訳は消化器外科約763例、炎症性腸疾患外科約336例、乳腺外科約160例でした。

消化器外科では、大腸癌手術症例数は前年より減少し、腹腔鏡下の手術の割合も67％とやや低下しました。一方で、平成29年から導入した腹腔鏡補助下直腸固定術（直腸脱の根治術）は58例行いました。

胃癌手術症例数は減少しましたが鏡視下手術は増加し、肝胆膵領域では膵頭十二指腸切除術を16例、腹腔鏡下肝切除術を１例行いました。

乳腺外科は、前年とほぼ同数で、ほぼ全例でセンチネルリンパ節生検手術を導入し、地域連携パスの運用も増加させました。

炎症性腸疾患外科は、紹介患者数の減少からやや手術件数は減りましたが、従来通り関東圏はもとより全国か

ら患者を受け入れています。

緊急手術は182例で前年より減少しました。中でも急性虫垂炎は昨年の87例から67例と減少しました。市民病院全体として予定手術が多く手術室も９室と限られているため、現在のスタッフの人数から考えると現在の手術件数が限界と思われます。

ところで、2020年度から当院での初期研修医のプログラムが改定され、外科コース（２名）を新たに設けることとなりました。これにより、研修医３年目以降に外科専門医プログラムを選択する研修医が、一人でも多くなることの助けになればと願っています。

今後も地域中核病院として周辺の医療機関と連携を密にし、より一層地域医療に貢献していきたいと思います。これからも、ご指導ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

（文責：望月康久）

藤沢市民病院

〒251-8550　藤沢市藤沢 2-6-1
TEL 0466-25-3111　FAX 0466-25-3545

平成30年度の人事異動では、後藤、南澤、酒井、堀内が退任しました。この４名に代わり、小笠原（10月から）、田、矢後、佐原（９月まで）、豊田が着任し、山岸、牧野、南、山本と外科専攻医の小倉を加えた９名で診療しました。 例年と同様に、矢後、佐原、豊田、小倉が呼吸器外科をローテ―トしました。また、今年度からは外科から救急外科が分家したので、豊田、小倉がチームの一員としてローテ―トに加わりました。さらに、２か月毎に卒後１年目、２年目の初期研修医がローテートし、手術・病棟管理を担当しました。

今年度の話題は、なんといっても病院再整備の完成です。平成24年５月より、病院東館（昭和46年建設）の建て替えを中心とする再整備事業を開始しました。平成27年９月より、新しい東館での診療を開始しました（外来ホール、駐車場などの整備を除く）。そして、平成30年７月に再整備事業が完了し、グランドオープンを迎えました。オープニングセレモニーへは遠藤教授にも御足労いただき、お祝辞をいただきました。御多忙の折、また暑い中お越しいただき、誠にありがとうございました。おかげさまで盛大なセレモニーになりました。ただ、その後、いわゆる免震・制振オイルダンパーに関して、性能検査データの改ざん問題が挙がり、当院もデータ改ざん部品が使用されている疑いが指摘されており、今後のことの行方が心配です。

2018年１月～12月の主な手術件数は、乳癌153件、肺癌53件、食道癌３件、胃癌67件、結腸癌80件、直腸癌52件、原発性肝癌９例、転移性肝癌12例、胆道癌４例、膵癌20例、胆石症109例、虫垂炎80例、ヘルニア105例でした。全体手術件数は891件で、前年より31件増加し過去最高を更新しました。主に増加した疾患は乳癌で、前年99件が今年は153件と54件増加しました。これは、今年度から山本が乳腺専門外来を整備し、運用開始した影響と考えます。定時手術693件、緊急・臨時手術198件で、緊急・臨時手術が多い状況が続いていますが、これらは救急外科が

主に担当しているので、以前と比較すると外科医のQOLは改善しています。ただ、救急外科だけで全ての急患を担当するのは人員的に不可能なので、外科も連携を密にとりお互い助け合って診療しています。院内での外科の特徴としては、手術件数もさることながら、乳癌症例の増加に伴い外来化学療法も激増し、乳腺を含む外科は外来化学療法室の利用が最も多い診療科となっていることです。

例年通り上部消化管担当の牧野がガイドラインに則り腹腔鏡下胃切除術を指導しており、今年は年間22例に施行しました。今年度からは腹腔内吻合のLDGを導入しており、より低侵襲で安全な手術を目指しております。大腸癌に対する腹腔鏡下手術は125件（94.7%）となり、昨年同様年間100件を突破しました。最近は１年毎に人員が異動するので指導が非常に大変で、内視鏡外科学会技術認定医を育てる環境整備が必要だと考えています。肝・胆・膵は南を中心に例年と同様の手術件数を行い、多発肝転移症例も術前化学療法後に積極的に切除し、適応を厳格にして腹腔鏡下肝切除術も施行しています。緊急の腹腔鏡下胆嚢摘出術は、若手の腹腔鏡技術向上に有用で、ガイドラインに準じて積極的に施行しています。鼠経ヘルニアに対するTAPPは主に右側、両側症例に適応を絞り、若手の腹腔鏡手術の修練の場となっております。

本年度も恒例となった地域の小学生と保護者を対象とした「病院お仕事体験ツアー」を夏休み期間中の８月に実行しました。外科は、腹腔鏡トレーニングキットと超音波凝固装置を用いての模擬手術を担当し、大好評でした。未来の医師、できれば外科医を目指してほしいものです。

学術関連は、学会発表が57演題（シンポジウム３演題、パネルディスカッション１演題、ワークショップ３演題、要望演題１演題）で、手術だけでなく学術面でも意欲的に取り組んでいますが、論文発表が１題と昨年より少なく今後の課題です。また、例年同様に消化器内科、外科合同カンファレンスを地域の開業医の先生方と２か月に一度院内で開催し、紹介患者さんの情報交換と症例検討会を行っています。さらに、近隣病院との連携、親睦を目的に「湘南colon cancer conference」を今年度も開催し、がん総合医科学主任教授の市川靖史先生にご講演いただき、地域医療の発展に努めています。一方、外科医なので手術の手技向上のため、湘南西部の病院を対象にして年２回「湘南大腸癌セミナー」も継続して開催しています。これは手術ビデオを供覧して、普段聞くことのできないことや、他施設のやり方など多方面から吸収できる研究会で毎回好評です。

これからも、地域医療に貢献し、高水準の医療を提供できるよう努力してまいりますので、支えていただいた多くの方々におかれましては、ご指導、ご鞭撻のほどを何卒よろしくお願いいたします。

（文責：山岸　茂）

伊東市民病院

〒414-0055　伊東市岡 196-1
TEL 0557-37-2626　FAX 0557-35-0631

◆ 関連施設勤務者
副診療部長・外科科長　　神谷　紀之（平.4）

2018年の当院外科は、消化器・腫瘍外科からは私１人と、京都府立医大出身の城野医師（S59）の、常勤は２名で診療をおこなっています。今年度も昨年同様、地域医療振興協会に関連施設の外科若手医師の支援を依頼しました。東京ベイ・浦安市川医療センターから通年１枠、３名の若手外科医が交代で通年１枠を支援してくださり、常勤３名体制を維持することができました。NCD登録数は268件で昨年度と同じ水準になっています。手術の内訳は例年と変わりなく、胃癌の手術が年々減ってきているようです。

大腸癌根治術における鏡視下手術の割合は27/41例、約66％でした。昨年度は手術室の枠の関係でやむなく開腹を選択するケースが見られましたが、今年度は手術時間の短縮やマネージメントの改善等で、やむなく開腹、という事は無くなりました。

昨年のこの場で、地域医療支援病院、鏡視下手術の増加、の２つの課題について記載しましが、経過を報告させていただきます。

地域医療支援病院は、昨年10月に認定を受ける事ができました。経営という面では一安心ですが、その名に恥じないような医療を提供せねばなりません。第２外科OBでいらっしゃる田島滋先生をはじめとした地元医師会の先生方とは、今後も密に連携をおこない、またご期待を裏切らないよう努めてゆきたいと考えています。

２つ目の鏡視下手術ですが、大腸癌に関しては前述の通りでした。開腹症例は穿孔や他臓器浸潤など患者要因であるため、鏡視下手術の割合は現状の60－70％を維持できれば、と考えています。

鼠径ヘルニアと急性虫垂炎ですが、現在の手術術式の流れ、若手医師の育成、病院の経営が悪化している事などを手術室麻酔科と話し合い、今年度は徐々に件数が増えてまいりました。今年度鏡視下手術の割合は鼠径ヘルニア44.4％、虫垂炎　46.4％となり、患者様には選択肢として堂々と（？）提示できるようになりました。また消化器腫瘍外科の関連施設からは、手術指導の先生に来院していただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

当院に着任してから、消化器腫瘍外科の他の関連施設に遅れを取らないよう、なんとか食らいついている状況です。開業の先生方が、患者さんに「（静岡県立）がんセンターに行かなくても市民病院で大丈夫だよ。」と言って当院を紹介していただけるのがとても励みになります。本年度もよろしくお願いいたします。

（文責：神谷紀之）

横須賀市立市民病院

〒240-0195　横須賀市長坂 1-3-2
TEL 046-856-3136　FAX 046-858-1776

横須賀市立市民病院は前回の東京オリンピックの前年、昭和38年12月横須賀市立武山病院として開院しました。以来50余年になる、横須賀市・三浦半島西部地区の中核的病院です。

三浦半島の西海岸に位置し、西には豊饒の海相模湾、東には半島随一の頂、大楠山を望む風光明媚な場所に位置しています。病棟から仰ぎ見る三浦半島の山並みはなかなかのもので、最上階の和食レストランから望む相模湾越しの富士山も絶景です。首都圏のリゾート地、逗子、葉山は目と鼻の先で、美味しいもの好き、新し物好きにはたまらない場所も数知れずあります。

2018年度メンバー（朝カンファランス終了時）

横浜横須賀道路の料金改定や平成29年に都市計画道路久里浜田浦線約1.2kmの区間（三浦縦貫道衣笠入口交差点から万葉公園東側交差点まで）が開通したことにより、横浜周辺からもぐっと近く、より経済的に通勤可能になってきました。

2018年度（平成30年度）の外科は病院管理者久保章(昭50)以下、副院長・診療部長の亀田久仁郎（昭63）、長嶺弘太郎（平６）の他、個性溢れる以下のメンバーで日夜診療に励んでいます。

「七代目」中山岳龍（平20）は「言うときは言う男」として若頭？的役割を果たしています。山田「東奔西走」淳貴（平24）は二年目の今年も大活躍しています。「軽妙洒脱」中崎佑介（平25）はドラゴン中山を兄と慕いつつ、チームリーダーNのしつこいジョークに悩まされながらも奮闘する日々。

その最中、2019年１月には三宅益代（平21）が当院に帰国、息子２人、娘１人（カンファレンスの常連）を抱えながら獅子奮迅の活躍です。さらに日大出身の「理論派」杉浦（平６）を加えた計７名で診療にあたっています。

本年度も各々個人的問題？（ ― 各個人に聞いてみてください。― ）を抱えながらも、家族との時間、プライベートな時間も大切にできるようお互いに協力してやっていけてるのではないかと思います。

高齢化の波を受けて、複数の併存疾患を有する超高齢者の重篤な症例も本当に多くなってきました。患者さん、そしてそのご家族の期待に応える困難さを痛感していますが、これら困難な症例にも外科チーム一丸となって対応しています。

年間の手術症例は350例ほどですが、ほとんどの術者は若手ローテーターですので、十分な手術経験、修練が積めます（本当です。中崎君に確認してもらえれば分かります。）。

医局員の皆さん！是非我々と一緒にここで働いてみませんか。

開院以来地域住民の皆さんから愛され、信頼されている地域密着型の病院です（来れば本当に実感します。）。必ず皆さんのやる気をおこさせてくれる病院です。そして厳しく、激しい仕事の後にはグルメを堪能してください。もちろんデートスポットも海沿いを中心としてたくさんあります（多分…中崎にでも聞いていただければ…）。

最後に経営に関して申し上げます。当院は平成22年４月以降公益社団法人地域医療振興協会が指定管理する、所謂「公設民営化」病院へ移行しました。以来、民営化後10年近く経過し、久保管理者の強力なリーダーシップのもと着実な経営改善、健全化を達成してきています。これもひとえに、同門の先生方のご支援の賜物だと一同大変感謝しております。

同門の先生方におかれましては新年度も引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

（文責：長嶺弘太郎）

横浜労災病院

〒222-0036　横浜市港北区小机町 3211
TEL 045-474-8111　FAX 045-474-8323

◆ 関連施設勤務者

乳腺外科部長	千島　隆司（H.3）	
外科副部長	松尾　憲一（H.6）	（9月30日退職）
乳腺外科医師	門倉　俊明（H.18）	
乳腺外科医師	木村　安希（H.25）	
外科医師	平井　公也（H.25）	

横浜労災病院は、横浜市北東部医療圏の地域中核病院として1991年に開設されました。2012年4月に乳腺外科が新設され、2015年8月からは外科（消化器・一般外科）へもスタッフが派遣されるようになり、2017年度は乳腺外科3名、外科2名（10月からは1名）で診療に当っています。

☆ 乳腺外科の近況報告

2012年４月の乳腺外科設立当初から「病を診る治療だけではなく人を看る診療」を理念として、1. 患者に寄り添った乳がん診療の実践、2. 最新治療を安全かつ確実に実施できるチーム医療の確立、3. 家庭医との緊密な連携の推進を３本柱に診療してきました。６年目を迎えた2017年４月からは、「患者中心の医療」を実践するための包括的乳腺先進医療センターの運用を開始しました。本センターは、横浜市が推し進める「総合的ながん対策推進事業」の一つに位置づけられて、横浜市からの支援のもと「乳がんチーム医療のモデル施設」として設立されました。2018年２月19日には、横浜市内にある４病院（横浜労災病院、横浜市立みなと赤十字病院、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター）が「横浜市乳がん連携病院」の指定を受けました。各病院が連携しながら、最新の乳がん診療に加えて、遺伝性腫瘍に関する相談、治療と就労の両立問題、アピアランス（容姿）ケアなど、患者が安心して治療を受けられるための患者支援の充実に取り組んでいます。

包括的乳腺先進医療センターにおける2018年の手術件数は、悪性腫瘍の根治手術が243件、良性腫瘍やリンパ節生検などが52件、一次乳房再建術が47件（別途にシリコンインプラント入れ替え55件）、二次乳房再建が７件、画像ガイド下組織生検が105件でした。

新たな元号に代わる2019年度は、1. 乳房再建などを中心に患者QOLを重視した診療の実践、2. 国内外の臨床試験や新薬治験などの臨床研究の推進、3. 就労問題・遺伝相談・がんの生殖医療・アピアランス相談・メンタルヘルスなど患者支援の充実、4. 乳がん診療に携わる全国の医療スタッフを対象としたチーム医療教育の推進、5. 病診連携の充実と高齢・併存疾患を持つ患者に対する地域包括ケアの構築を５本柱に据えて日々の診療に取り組んでいきます。

☆ 外科（消化器・一般）の近況報告

当院の外科は千葉大第二外科（現先端応用外科学教室）の関連施設として当院開院当初から尾崎正彦先生を中心に築き上げられてきた外科です。2018年度は、松尾憲一先生と平井公也先生の２名体制で診療を行ってきました。10月に松尾先生が退職されてからは、平井先生が“孤軍奮闘”頑張ってくれています。基本的には主治医制であり横浜市大のチーム制とは異なりますが、手術に入ったメンバーが緩やかなチームとなって上も下も協力しあって患者さんに対応しています。毎朝のカンファレンス、月曜夕方：消化器内科との画像カンファ、水曜午後：術前カンファ（他科も含めた）、木曜午後：術後報告・問題症例検討・予演会ときっちりカンファレンスを行っており、若手外科医への教育面や医療安全面からもカンファレンスに重きを置いています。2018年の手術件数は1,106例であり、食道癌９例、胃癌43例、大腸癌121例、虫垂炎85例、ヘルニアは200例超と症例数は非常に豊富です。食道癌での３領域郭清や骨盤内蔵全摘術などの拡大手術を行う一方で、ダビンチを用いたロボット支援下手術も積極的に導入しています。緊急手術も多く、若い先生方も術者として多数の症例を経験することが可能です。学術関連では、学会発表や論文発表にも取り組んでいます。2019年度からは若手外科医の１名体制となります。若手のうちに、他の教育関連施設で学ぶ“第2外科流儀”とは異なる手術を経験しておくことは、必ず将来の糧になると考えています。幅広い手術手技を身に着けたい若手には、新横浜での“武者修行”をお勧めします。

横浜労災病院には心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、救急医療部が独立して存在し、外科専門研修プログラムにおいても専門医取得のための十分な症例を経験することができます。これからも横浜労災病院が消化器・腫瘍外科学の教育関連施設として「魅力的な病院」となれるように頑張りたいと思います。

（文責：千島隆司、平井公也）

横須賀共済病院

〒238-8558　横須賀市米ヶ浜通 1-16
TEL 046-822-2710　FAX 046-825-2103

横須賀共済病院では、横須賀市、三浦半島における地域医療支援病院・がん診療連携拠点病院として急性疾患からがん診療までスタッフ一同診療に励んでおります。2014年４月に病院長に就任された長堀薫先生は「若手外科医が楽しんで仕事をする、救急は全応需する」ことを強調されており、スタッフは以前よりさらに多くの手術を経験しています。当直後はスタッフ同士が業務を補完しあいながら、off dutyの義務化を推進し（まだ不十分な点も多くありますが！）ています。

外科を中心に新たな取り組みとしてAIの導入が挙げられます。まだまだ、試行錯誤の段階ですがAI導入に向けて様々な情報収集、試験などを繰り返しております。

術式は腹腔鏡手術が主体を占めており、ヘルニア、虫垂炎などの良性疾患から胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵体尾部癌などの悪性疾患まで、手術の多くが鏡視下で行われています。この流れは外科だけでなく、婦人科、泌尿器科、耳鼻科、脳外科、整形外科など他科にも広がっています。また、2018年から直腸癌手術にda Vinciを導入しました。

術後のフォローアップは従来通り横須賀市医師会、近隣病院と連携して地域連携パスを適用しており、胃癌、大腸癌、乳癌の早期患者はほぼ全症例紹介いただいた先生方に見ていただくことが可能となっております。現在は胃癌、大腸癌術後の補助化学療法に対する地域連携パスも導入してきており、今後さらに地域の中核病院として、外科専門研修プログラムにおいては専門研修基幹施設として、役割を果たしていきたいと考えております。

学術関連は、地域診療所の先生方、病理、内科、外科合同の消化器病カンファランスを定期的に行なっており、さらにそれを発展させた形で年２回横須賀消化器病セミナーを行っています。また、今年度も横須賀共済病院を筆頭とする学術集会総会の発表がさらに増えており、学会中の手術数の制限と人員不足がひとつの課題となりますが、若手外科医にとってよい刺激の場となるため、今後も両立していくことが必要と考えています。

今年度の診療体制も昨年と同様に、舛井部長、茂垣部長のもと平成８年から15年卒までの比較的若い中堅医師をオーベンとした若手外科医中心の診療が行われています。今年度の新規シニアレジデントは２名であり、医局からの派遣医師１名と合わせて卒後６年以下の外科医が６名と診療の中心となっています。救急患者数も非常に多く、高難度な手術から緊急手術まで幅広く経験することができる忙しくもやりがいのある職場であると実感しています。

今後も地域医療支援・がん診療連携拠点病院として、地域医療に貢献し、さらにより高水準の医療を提供できるよう精進していきたいと考えておりますので、益々のご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いします。

（文責：木村　準）

横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682　横浜市中区新山下 3-12-1
TEL 045-628-6100　FAX 045-628-6101

横浜市立みなと赤十字病院は横浜市立港湾病院と横浜赤十字病院の機能を継承し、2005年４月に開院した公設民営化の病院です。

2018年４月から、外科では杉田光隆、小野秀高、渡部顕、有坂早香、鳥谷建一郎、大矢浩貴、とシニアレジデント３名の計９名が肝胆膵Group、上部Group、下部Groupの臓器別３チームに分かれて診療にあたっております。乳腺外科では清水大輔、須藤友奈の２名が、緩和医療科では小尾芳郎が日々の診療にあたっています。肛門疾患の手術が当院で必要な場合は、松島病院の松島誠先生に来て頂いております。また、乳腺外科では非常勤で盛田和幸先生、島秀栄先生、鈴木千穂先生に来て頂いております。阿部哲夫先生に、非常勤として月曜～水曜に外来・手術のお手伝いをして頂いておりましたが、それも本年で最後になりました。

当院の研修医の先生はやる気のある先生が多く、各チームに少なくとも１人が配属されて一緒に診療にあたっています。

当院の昨年の救急車搬送患者は日本のトップクラスであり、基本的に救急搬送依頼を断りません。従って、緊急手術が多く、絞扼性イレウス、消化管穿孔、急性虫垂炎などの緊急手術が多いのが特徴です。

幸いながら、救急科の救急外科部長に馬場裕之先生がいらっしゃり、緊急手術の前立をして頂けるため、日中の緊急手術は、予定手術の終了を待たずに行うことが出来るようになっております。一方で、若いスタッフが多いため、相変わらず術者になる機会も少なくなってしまっているのは否めません。しかしながら、各々の臓器のスペシャリストが若手外科医の育成できる教育システムを充実すべく努力しております。

本年度から始まった、専門医制度に、当院も基幹病院として各年１～２名の専門医を育てるカリキュラムを導入しました。

高齢者や全身状態が不良な患者様が多いのも当院の特徴で、術後の集中管理に関しては、ICUの先生方にも協力していただきつつ、治療を行っております。

平成2012年４月から地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、毎月第２水曜日に肝胆膵キャンサーボードを開催しておりましたが、当院でも働き方改革の波が押し寄せ、毎週火曜日に開催されていた消化管キャンサーボードや抄読会がなくなりました。

腹腔鏡下手術も積極的に導入しており、上部消化管では約1/2が、下部消化管では９割が腹腔鏡下手術を行っております。特に、結腸・直腸の腹腔鏡下の手術が100件以上行っております。腹腔鏡下手術の機材は最新のものが導入されており、5mmのフレキシブルスコープ、AirSeal、録画装置などの最新のものが揃っております。さらに、開腹手術の術野を綺麗に撮影できるプロ仕様のJib Armも導入しました。Da Vinciを用いたロボット手術は、昨年度までは泌尿器科でしか用いられてませんでしたが、本年度からは、直腸癌でロボット支援下直腸切断術を始め、３月で施設基準を満たしたため、県内で３施設目（市中病院では初）の保険診療が出来る施設になりました。

院内のハード面も充実しており、術前検査を全て組んでも１週間はかからずに終わる事ができ、MRIやPET/CT等の検査に関しては、他院からの予約を受け付けること

も出来ます。また、4月よりハイブリッド手術室もでき、手術件数は増えております。

一方で、立地条件で交通の便が悪いというビハインドも否めず、地域の先生からの紹介もしてもらいづらいという事もありますが、地域連携パスを積極的に導入して、術後は紹介元の先生と連携してフォローアップをさせて頂いております。

地域の先生方との連携としては、年2回、横浜消化器疾患研究会や病院主催の医師会との合同研究会などを開催しており、交流を図っております。

外科の週間予定は、月曜日の朝に全体患者の経過のカンファレンス、火曜日の夜に術前・術後カンファレンス、水曜日の朝に病棟師長とベットコントロールを含めたカンファレンス、木曜日の朝に術後報告を行っており、昨年度までは火曜日は枠がありませんでしたが、今年から火曜日も手術枠を頂き、毎日手術を行っております。

医局はオープンな総合医局で、診療科で固まらないように配置されているため、他科との交流・意思疎通の良さが感じられます。一方で医師の数は年々増加しており、それに伴って医局の部屋が3つに分かれています。

さらなる地域医療に貢献すべく、質の高い医療を提供できるように、若手外科医の教育を含めて精進する所存ですので、今後とも、益々のご指導、ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

（文責：小野秀高）

済生会若草病院

〒236-8653　横浜市金沢区平潟町 12-1
TEL 045-781-8811　FAX 045-784-5443

済生会若草病院の前身は西区岡野町にあった恩賜財団済生会神奈川県病院（大正2年9月設立）で、昭和20年の横浜大空襲により焼失後、昭和21年4月15日に金沢区平潟町の旧海軍釜利谷工員宿舎を仮病院として診療を再開し、これが現在の済生会若草病院に至っているという歴史のある病院です。

2018年は11の診療科で外来診療を行い、入院患者については一般病棟43床、地域包括ケア病棟88床、回復期リハビリテーション病棟46床の計177床で診療を行ってきました。当院は経営面で厳しい状況が続いていましたが、全職員一丸となって職務に励んだおかげで2018年はかなり盛り返すことができました。しかし2019年に入り看護師の退職や整形外科の縮小などから病床数を減らさざるを得なくなり、一般病棟を25床に地域包括ケア病棟を75床に減少させ4月からは計146床で診療を行うことになりました。これに伴い転院などの要請もお待ちいただくことが予想され、各病院の先生方にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。

地域包括ケア病棟は患者の在宅復帰支援のために作られた病棟ですが、入院期間は60日間が限度で入院患者の7割が在宅などに退院しなければならないという施設基準があります。このため病棟調整会議を定期的に行い、入院60日を超えそうな長期入院患者は転院をすすめるよう調整しています。また当院は訪問診療にも力を注いでおり、急性・慢性を問わず対応できる地域密着型病院として稼働しています。

外科は3月までは簾田部長のもと三邉・山口の3人体制で、4月からは山口に代わり坂本が着任し診療を行いました。菅江先生をはじめとする3人の非常勤の先生方には乳腺外来と乳がん検診を担当して頂いており非常に助かっております。

当院での手術は基本的に横浜市大病院や横浜南共済病院、済生会横浜市南部病院で速やかに施行することが困難な症例が中心です。2018年は年間247症例の手術を経験しましたが、その内訳は鼠径ヘルニアが主で111例（腹腔鏡85例、Direct Kugel法26例）、臍ヘルニア・腹壁瘢痕ヘルニアが4例でした。その他、胆嚢摘出術24例、虫垂切除術8例、胃癌・大腸癌切除術9例などです。また当院では3Dのフレキシブル腹腔鏡を使用しています。手術は

可能な限り腹腔鏡で行い患者様の負担軽減になるよう努力しています。ただ現在、残念なことに麻酔科は１人体制でかつ原則17時までの勤務体制となっています。このため終刃が17時を過ぎる長時間の手術や夜間休日の緊急手術を行うことができず、麻酔科の充実がはかれれば手術症例数をもっと増やすことができるのではと考えています。

近隣の病院、開業医の先生方との間に緊密な関係を築くことにも努力しています。2010年からは横浜市大病院との間に癌連携病院の契約が交わされ、療養に時間を要する症例や入院化学療法を希望する症例、癌の術後再発・非切除で緩和医療を要する症例など大学病院では対応困難な症例を積極的に受け入れています。特に癌性腹膜炎を発症し腹水のコントロールに悩む症例に対してはKM-CARTを行い症状緩和に非常に役立っています。横浜南共済病院や金沢病院との連携では近接した地理性、異なる専門性を生かして地域医療への貢献に力を入れております。

2019年は病院自体の病床数縮小に加え外科も簾田・坂本の二人体制になることが決まっています。そのため大学病院の先生方に一般外科外来や当直のお手伝いをお願いすることになり、申し訳なく思うとともに大変感謝しております。非常に厳しい状況ですが手術症例数を何とか維持しつつ、診療の質の向上を目指したいと思っておりますので今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

（文責：簾田康一郎）

長津田厚生総合病院

〒226-0027　横浜市緑区長津田 4-23-1
TEL 045-981-1201　FAX 045-983-3647

長津田厚生総合病院は、日ノ出町に昭和22年に診療所として開設され昭和24年に病院に転換した日ノ出町厚生病院が前身です。その後横浜市北部の開発に伴い昭和30年に長津田厚生病院が開設され、昭和43年には拠点を日の出町から長津田に移し、現在の長津田厚生総合病院としての診療が始まりました。

病院規模は許可病床数が190床で、そのうち急性期一般病床が170床、療養型病床が20床です。健診センターや人工透析センターも併設されており、地域にとけ込んだ病院として機能しています。また、院内でも消化器内科や循環器内科、腎臓内科など他科の医師との連携も緊密に行いやすく、良好な関係の中で治療に当たらせていただいています。

外科は、外科部長の森と平谷の２人体制ではありますが、胆嚢摘出術・虫垂切除術・ヘルニア根治術は腹腔鏡手術を標準治療とし、胃癌や大腸癌でも積極的に腹腔鏡下の手術を目指しています。しかし、まだまだ若輩な二人のみであるため、大学や関連施設から医師の派遣を依頼することも多く、協力していただいた施設や施設長の先生方には大変感謝しております。

症例数は多いとは言えませんが、2018年は昨年より約80例増加し264例の手術を施行しました。内訳は鼠径ヘルニア63例、虫垂切除術17例、胆嚢摘出術28例、結腸・直腸癌手術18例（うち腹腔鏡は11例）、胃癌手術７例（うち腹腔鏡は２例）などです。高齢で複数の合併症をもった患者様が多いのですが、その中でも安全を第一に考えな

がら積極的に手術を行ってきた結果と思っております。さらに終末期・緩和医療にも力を入れており、近隣の病院からケアの必要な患者様を積極的に引き受けさせていただきました。

病院の全面改築については数年来構想が練られてきており、いよいよ段階的に工事が始まっております。新病院が完成すれば患者数、手術件数も増加することが期待され、当院の医療の質の向上とさらなる発展につながるものと願っております。

（文責：森隆太郎）

新病院外観（予定図）

一般財団法人 育生会横浜病院

〒240-0025　横浜市保土ヶ谷区狩場町 200-7
TEL 045-712-9921　FAX 045-712-9926

◆ 関連施設勤務者

院　　長	長堀　優（S.58）
外科部長	大山倫男（H.20）
名誉院長	塩谷陽介（S.36）

当院は、終戦翌年の1946年に横浜駅西口に近い岡野町で開院し、2016年には開設70周年を迎えています。終戦の直後、ほとんどの医療機関が焼失した中、医療の中でも出産や子育て時の医療が重要になるとの理念から設立された財団法人が基盤となっています。開院当初より、通常の医療活動に加え、社会福祉事業法の定めによる無料低額診療事業、特に乳幼児の保健と保育に力を注いできました。そのため、「生まれ育てる会」の意味から、法人名が「育生会」と命名されました。

1995年の保土ケ谷区狩場への移転を機に、高齢者医療に軸足を移しました。団塊の世代がすべて後期高齢者になる超高齢化社会を控え、病院と介護老人保健施設「ユトリアム」、特別養護老人ホーム「よつば苑」とを併設した複合施設となることにより、これから求められる医療に向けて、第二のスタートを切ったと言えるでしょう。

当院は、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、患者さんやご家族を支える訪問診療を早くから導入しています。さらに同じ敷地内に病院、老健、特養を併設していますので、日本が直面する超高齢化社会において、地域医療ケアの中心となって貢献する使命があるものと考えています。

老健、特養を併設している当院は、急性期医療より、高齢者医療に力を入れているのが特色です。横浜市は、大規模な急性期病院を多数有しており、保土ケ谷区だけでも横浜市立市民病院、聖隷横浜病院、横浜保土ケ谷中央病院などが急性期医療を担っており、近隣にも横浜市大市民総合医療センター、済生会南部病院などがあります。このような病院と密接に連携し、治療後すぐには自宅に戻れない患者さんを当院で引き受けて治療を続けています。

高齢者に多い誤嚥性肺炎も、根本の原因はご本人の体力が落ちていることであり、長期入院が困難な急性期病院では、せっかく退院しても、その後に肺炎が繰り返され、再入院となることがあります。その点、当院は院内に設置したリハビリ施設で理学療法士が指導し、体力の回復を図ると同時に、看護師が飲み込みの訓練を丁寧に

進めるなど、その方のペースに合わせた療養が可能です。経口摂取が無理であれば、CVポートやPEG造設を行っています。

患者さんの回復状況やご本人・ご家族の希望をもとに、ご家族のほか担当医師や病棟看護師、地域のケア・マネジャー、ケースワーカーが参加して検討会が行われ、「自宅に戻ってからの対応」や「どのようなヘルパーが必要か」などの点につき話し合い、その後の暮らしを具体化していきます。

自宅に戻る場合は、当院医師による訪問診療や、当院スタッフによる24時間対応の訪問看護ステーションが対応することもできますし、その他、老健でご家庭に戻る準備をされるケース、終の住まいともなる特養への入居を選ぶケースもあります。この場合も当院は敷地内にそれぞれの併設施設を持っていますから、病院から施設にスムーズに受け入れができる利点があります。

このような地域医療を効率的に展開すべく、2016年2月より、地域包括ケア病棟を開設したところ、病病連携、ならびに訪問診療専門クリニックや地域の訪問看護ステーションとの連携、さらにケア・マネージャーなどからの引き合いが一挙に増え、入退院数はそれぞれ倍増しました。

その内訳をみると、急性期病院での治療が終わった高齢者の後急性期医療、末期がん患者の看取り、地域からの緊急入院（熱中症、誤嚥性肺炎、脱水、老衰など）に加え、介護患者の一時預かり（レスパイト入院）などとなっており、急性期病院では受け入れにくい高齢患者を当院で引き受けている状況がはっきりと読み取れます。

一方、外来では、内科、消化器内科・消化器外科、循環器内科、外科、皮膚科、婦人科を中心に診療を行ってきましたが、平成30年度には、地域の先生方のお力を借りて、糖尿病外来、整形外科外来、緩和ケア外来を開設することができ、格段に外来診療の質が向上しました。

診療サービスに加え、当院では入院や通院患者さん、そしてご家族を対象として、東京芸大やジュリアード音楽院などで学ばれた才媛を招いての院内コンサート（写真）や、独演会などで活躍される落語家による院内高座も行っており、毎年好評を博しています。

さらに、患者さんに対する診療環境のみならず、当院では、職員が働きやすい環境づくりにも力を入れています。結婚や出産で職を離れた人の復帰を支える体制を整えたり、高齢者雇用も推進しており、『よこはまグッドバランス賞～働き易く子育てしやすい中小企業～』の認定をこれまで6回受けています。職員が安心して働けることは、結果的に患者さんへの気づかいやサービスにもつながると考えています。

当院へローテ―トされる先生は、外科手術に関しては、研究日に関連病院で学んでいただくしかないのですが、忙しい外科キャリアではあまり関わることのない高齢者の地域における介護ケアや看取りの実際を短期間体験することは、外科医としての視野を広げることになるのではと思います。病院においてはもちろんですが、地域医療においても、外科医の存在感はとても大きいものがあるからです。また、ある程度は時間の余裕がありますので、論文をまとめる期間と捉えリフレッシュを図るのもよいかもしれません。今は大山先生が部長として頑張ってつないでくれていますが、先々は、1年ではなくとも、もっと短いスパンでのローテ―トについても柔軟に対応させていただくつもりです

この先も、医局のご支援を仰ぎながら、地域医療充実のため頑張りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

（文責：長堀　優）

東京芸大やジュリアード音楽院などで学ばれた才媛を招いての院内コンサート

港南台病院

〒234-8506　横浜市港南区港南台 2-7-41
TEL 045-831-8181　FAX 045-831-8281

2013年４月より大塚裕一が赴任しており、今年で７年目を迎えました。2018年４月からは医局より山口直孝が勤務を開始しております。当院が港南台の地に神谷周明先生により開院されてから2019年で40年を迎えることとなりました。法人としては病院、介護老健施設、有料老人ホームを運営していますが、さらに地域医療に貢献するべく、港南台駅北側に第二病院の建設に着手、また現病院そばにグループホームの開設を始めています。

山口直孝が勤務したことで、外科的な処置に対する幅が広がっています。例をあげると、病態の改善により胃瘻が不必要になった患者さんに対する小開腹を伴う胃瘻抜去術を局所膨潤麻酔下で行えるようになりました。不要になった胃瘻部は単純にカテーテルを抜去し体表創が瘢痕化するだけで様子の見るのではなく、胃瘻作成時に作られた腹壁と胃との強固な癒着を開腹下でしっかりと取ることにより、経口摂取時の自然な胃の拡張が期待でき、実際に良好な摂食量増加の結果を得ています。また以前より行っている内視鏡通過不能例における局所膨潤麻酔下での小開腹胃瘻造設も行いました。

さらに５名の常勤医全員が嚥下内視鏡検査を施行できるような体制を確保し、摂食機能低下症例に対しては、耳鼻咽喉科の関与なしに嚥下機能の評価を適切に行った上で、言語療法士のリハビリ介入を行って、少しでも何とか口から食べていただくことを目指しています。

自宅や施設への訪問診療はさらに増加しており、平成29年12月現在で自宅への訪問で93名、施設への訪問で25施設582名の方の診療を担当しました。有床病院で行っている訪問診療ですので、患者さんの重症化やお看取り目的で訪問診療から入院加療へと変更になるケースが多いとはいえ、年間で95名の方のご自宅や施設でのお看取りを担当させて頂きました。横浜市大附属病院で定期的に行われているキャンサーボードにも呼んでいただき、大学からご紹介いただいた自宅看取り症例のケースプレゼンテーションを担当させていただく機会を得ました。一緒にかかわって下さった大学スタッフ、ケアマネージャー、訪問看護師やヘルパーさんと有意義なディスカッションを行うことができ、当院の地域の中での重大な使命を再認識しました。

これからも今までと変わらず「困ったときには港南台病院にちょっと相談してみよう」という気軽な感じでご相談下さい。大学や基幹病院からでは提案しづらい何かが当院ではできるものと思います。よろしくお願い致します。

（文責：大塚裕一）

松島病院大腸肛門病センター

〒220-0041　横浜市西区戸部本町 19-11
TEL 045-321-7311　FAX 045-321-7330

医療法人恵仁会には現在同門会の医師５名が勤務しています。松島病院には松島　誠理事長、長谷川信吾、松島ランドマーククリニックには松村奈緒美、松島クリニックには福島恒男先生、深野雅彦が所属しています。

松島病院では昨年4,798例の手術を行いました。手術に関しても従来の手術方法ばかりでなく様々な方法を取り入れています。痔核手術では従来の結紮切除法やALTA療法の他にイタリアで開発されたHemorPex System（HPS）を導入しました。また、痔瘻では最先端の経肛門的超音波検査装置を使用し、従来の肛門指診のみよりも飛躍的に診断能が上がりました。現在ではこうした画像診断を基に新しい括約筋温存手術（FPOT-2）を積極的に行っており、良好な結果を得ています。さらに、一昨年に排便機能センターを開設し、大腸肛門の機能を重視した専門的な診断と治療を行っております。肛門内圧検査、筋電図検査、排便造影（デフェコグラフィー）等の検査を行い系統的に診療しています。便失禁に対する仙骨刺激療法（SNM）が保険収載され、当院でも行っています。当院は以前から難治性肛門疾患の患者を多数紹介頂いています。現在、毎週院内で症例検討会を開き、こうした難治性肛門疾患や珍しい病態等の治療方針を決定しています。

松島クリニックでは主に消化器疾患の診療と人間ドックを行っています。消化器疾患の診療では特に内視鏡診断と治療とIBDの治療を行っています。また、近年広く行われているcold snare polypectomy（CSP）を一昨年から開始しています。昨年の実績としては、大腸内視鏡検査を24,035件行いました。そのうち従来のポリペクトミー、EMR、そしてESDを合計2,355件施行し、CSPは約2,800件

行いました。上部消化管内視鏡検査は6,046件施行し、カプセル内視鏡を22件行っています。また、IBD疾患は福島先生が中心となり約1,250名の患者の診療を行っています。

松島ランドマーククリニックは平成18年に女性専門の肛門科外来施設となり10周年を迎えました。

昨年、松島善視前理事長が亡くなりました。その際は多くの先生から御芳志を賜りまして、誠にありがとうございました。今後は松島　誠理事長以下職員一丸となって、大腸肛門疾患の基幹病院として益々頑張っていく所存でございますので、引き続きの御指導御厚誼を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

（文責：深野雅彦）

荒川外科肛門科医院

〒116-0002　東京都荒川区荒川 4-3-11
TEL 03-3806-8213　FAX 03-3803-7224

平成31年１月27日、名誉教授　土屋周二先生がご逝去された。

昨年11月９日、第73回日本大腸肛門病学会でお目にかかったのが最後であった。その時、大変お元気でいらっしゃった。謹んでご冥福をお祈りいたします。

荒川外科肛門科医院は、肛門外科が専門の、消化器病一般を診療している19床の診療所である。開業以来33年の月日が経ち、昨年の９月には総患者数は、10万人を超え、２月末現在102,112人になった。専門疾患の施設として広く人々に親しまれ、信頼されていることを嬉しく思う。

本年、充実したのは内視鏡センターであろう。検査医師は外勤を含め、10人ほど東京大学、東京医科大学、国際医療福祉大学三田病院、昭和大学消化器病センターからご協力いただき、横浜市大医局からも派遣していただいている。

近隣の東京大学医学部付属病院、東京医科大、日本医科大学、駒込病院、東京女子医大等の地域連携により、診療はより一層確実なものとなっている。

また、痔瘻を合併したクローン病の患者さんに、顆粒球吸着療法（G-CAP）を行い、病状の改善をみたことがきっかけで、ご子息の松田大助先生は炎症性腸疾患の治療にG-CAPを取り入れた。ここ２年程で看護科との連携により、炎症性腸疾患でも患者さん主体の治療を目指し、より良い結果が得られている。

松田好雄先生には、長年大変ご指導いただき、この場をおかりしてお礼申し上げる。その当時は、とくに家庭を持つ女性医師には勤務先がなかった。しかも臨床から５年も離れた後であり、現場の医学知識も欠落していたため、土屋先生が勤務をお願して下さったのだが、松田先生は即座にお引き受け下さったのである。随分ご負担があったことと思う。臨床姿勢から手術、診療の手腕、患者さん

への対応など様々学ばせていただいた。しかしまだ松田先生のその域には達していない。院長夫人の道子様からは家庭の子育てのことなど、教科書や本には書いてないことをご指導下さった。自分のことのようにご心配いただき、「心から」ということを学んだ。感謝しつくせない。松田先生は今も現役でバリバリお仕事されておられるが、それは道子令夫人のお力が大きいと思う。

［H30年の業績］

手術は、主に腰椎麻酔下に施行。ALTA治療・痔核根治手術・裂肛根治手術・痔瘻根治手術・直腸脱などで、総計約1,000例。痔瘻は224件で複雑痔瘻19例。

内視鏡検査では、上部消化管は3,901件、下部消化管は4,929件であった。

腹部超音波検査は2,213件。

月１回の院内のすべての課が集まるミーティングは、各課からの自由な発言があり、院内の問題点が仔細にわたり浮き彫りにされていく。

今年は平成最後の年で、５月１日から新しい年号に変わる。

院内にどのような改善事項があるか楽しみである。

それはさておき、同門の新年会では若手医師のご活躍を、目の当たりにして、かなり刺激された。私も心新たに患者さんのため、専門性を活かして努力していこうと思う。

（文責：大髙京子）

令和元年度 関連施設勤務者

（2019年９月現在）

●独立行政法人国立病院機構横浜医療センター

〒245-8575　横浜市戸塚区原宿3-60-2
TEL　045-851-2621　　FAX　045-853-8359

診療統括部長	関戸　　仁（S58）		
外科部長	松田　悟郎（H５）		
外科医長	清水　哲也（H９）		
医　　師	木村　　準（H15）	中川　和也（H17）	村上　剛之（H25）
	大石　裕佳（H26）	酒井　　淳（H27）	
非常勤勤務	太田　郁子（H14）		

●横浜市立市民病院

〒240-0062　横浜市保土ケ谷区岡沢町56
TEL　045-331-1961　　FAX　045-332-5599

消化器外科科長　部長	望月　康久（S62）	
消化器外科部長	高橋　正純（S58）	藤井　義郎（H３）
消化器外科医長	大田　洋平（H16）	
消化器外科医師	田村　裕子（H25）	
炎症性腸疾患（IBD）科　炎症性腸疾患センター長		
	小金井一隆（S61）	
炎症性腸疾患科部長	辰巳　健志（H12）	
乳腺外科科長　部長	石山　　暁（S58）	
乳腺外科部長	鬼頭　礼子（H９）	

●藤沢市民病院

〒251-8550　藤沢市藤沢2-6-1
TEL　0466-25-3111　　FAX　0466-25-3545

消化器外科主任部長	山岸　　茂（H７）		
専門医長	牧野　洋知（H８）	南　　裕太（H13）	浅野　史雄（H17）
	田　　鍾寛（H21）		
医　　師	池田　孝秀（H27）	井上　　栞（H27）	
乳腺外科部長	菅江　貞亨（H12）		
呼吸器外科部長	吉本　　昇（H５）		

●伊東市民病院

〒414-0055　伊東市岡196-1
TEL　0557-37-2626　　FAX　0557-35-0631

副病院長兼診療部長兼外科部長
神谷　紀之（H４）

●横須賀市立市民病院

〒240-0195　横須賀市長坂1-3-2
TEL　046-856-3136　　FAX　046-858-1776

管理者・病院長	久保　　章（S51）		
副病院長・診療部長	亀田久仁郎（S63）		
診療部長	長嶺弘太郎（H６）		
医　　師	小暮　　悠（H21）	三宅　益代（H21）	田中　淑恵（H24）

●茅ヶ崎市立病院

〒253-0042　茅ヶ崎市本村5-15-1
TEL　0467-52-1111　　FAX　0467-54-0770

乳腺外科部長　嶋田　和博（H15）
乳腺外科医師　小林侑華子（H27）

●横浜労災病院

〒222-0036　横浜市港北区小机町3211
TEL　045-474-8111　　FAX　045-474-8323

包括的乳腺先進医療センター長　乳腺外科部長
千島　隆司（H３）
乳腺外科医師　門倉　俊明（H18）　木村　安希（H25）
非常勤医師　原田　郁（H20）
外科医師　布施　匡啓（H27）

●横須賀共済病院

〒238-8558　横須賀市米ヶ浜通1-16
TEL　046-822-2710　　FAX　046-825-2103

病 院 長　長堀　薫（S53）
消化器病センター長、外科部長
舛井　秀宣（S62）
外科副部長　野尻　和典（H12）
医　長　吉田　謙一（H８）　小野　秀高（H10）　諏訪　宏和（H15）
柿添　学（H16）　大西　宙（H21）
医　員　大矢　浩貴（H26）　佐藤　清哉（H27）
非常勤医師　太田　郁子（H14）

●横浜みなと赤十字病院

〒231-8682　横浜市中区新山下3-12-1
TEL　045-628-6100　　FAX　045-628-6101

院長補佐、外科部長、肝胆膵外科部長
杉田　光隆（H５）
大腸外科部長　大田　貢由（H３）
医　長　渡部　顕（H16）
外科医師　久保　博一（H21）　近藤　裕樹（H25）　堀内　真樹（H27）
乳腺外科部長　清水　大輔（H８）
乳腺外科医師　木村万里子（H16）　須藤　友奈（H26）
緩和ケアセンター長　緩和ケア科部長
小尾　芳郎（S57）

●済生会横浜市南部病院

〒234－8503　横浜市港南区港南台3-2-10
TEL　045-832-1111　　FAX　045-832-8335

副院長　主任部長　患者サービス・地域連携部長　入退院支援センター長
福島　忠男（S62）
部　長　長谷川誠司（H２）　上田　倫夫（H６）
医　長　和田　朋子（H20）
齊藤　学（H25）　木下　颯花（H28）

●済生会若草病院

〒236-8653　横浜市金沢区平潟町12-1
TEL　045-781-8811　　FAX　045-784-5443

外科部長　診療部長　地域包括センター長　内視鏡センター長
簾田康一郎（S60）
医　　長　坂本　里紗（H21）
非常勤医師　井上　英美（H19）

●JCHO横浜保土ヶ谷中央病院

〒240-8585　横浜市保土ヶ谷区釜台町43-1
TEL　045-331-1251　　FAX　045-331-0864

院　　長　池　　秀之（S54）
外科部長　上向　伸幸（H６）　谷口　浩一（H11）
医　　師　田中　優作（H19）　有坂　早香（H20）
検 査 科　窪田　　徹（S61）

●横浜掖済会病院　外科

〒231-0036　横浜市中区山田町1-2
TEL　045-261-8191　　FAX　045-261-8149

副 院 長　佐藤　芳樹（S59）
部　　長　森岡　大介（H５）
副 部 長　泉澤　祐介（H16）

●NTT東日本関東病院　外科

〒141-8625　東京都品川区東五反田5-9-22
TEL　03-3448-6111　　FAX　03-3448-6558

医　　長　樅山　将士（H14）
医　　師　豊田　純哉（H26）

●長津田厚生総合病院　外科

〒226-0027　横浜市緑区長津田4-23-1
TEL　045-981-1201　　FAX　045-981-1205

副院長　外科部長　森　隆太郎（H12）
医　　師　平谷　清吾（H18）
非常勤医師　原田　　郁（H20）

●育生会横浜病院

〒240-0025　横浜市保土ヶ谷区狩場町200-7
TEL　045-712-9921　　FAX　045-712-9926

名誉院長　塩谷　陽介（S36）
院　　長　長堀　　優（S58）
医　　師　大山　倫男（H18）

●港南台病院

〒234-8506　横浜市港南区港南台2-7-41
TEL　045-831-8181　FAX　045-831-8281

神谷　周明（S45）
副 院 長　大塚　裕一（H８）
山口　直孝（H13）

●帝京大学ちば総合医療センター　外科（肝胆膵）

〒299-0111 千葉県市原市姉崎3426-3
TEL　0436-62-1211

村上　　崇（H18）

●聖路加国際病院　乳腺外科

〒104-8560　東京都中央区明石町9-1
TEL　03-3541-5151

喜多久美子（H17）

●松島病院

〒220-0041　横浜市西区戸部本町19-11
TEL　045-321-7311　　FAX　045-321-7330

理事長・総院長　松島　　誠（S53）
女性専門外来部長　松村奈緒美（H５）

●栃木県立がんセンター

〒320-0834　宇都宮市陽南4-9-13
TEL　028-658-5151　　FAX　028-658-5669

菊地祐太郎（H21）

●藤沢湘南台病院

〒252-0802　藤沢市高倉2345
TEL　0466-44-1451　　FAX　0466-44-6771

救急科部長　外科担当部長（救急）
小泉　泰裕（S61）

●関沢クリニック

〒236-0053　横浜市金沢区能見台通8-28
TEL　045-786-8852　　FAX　045-786-9293

関澤健太郎（H19）

●荒川外科肛門科

〒116-0002　東京都荒川区荒川4-2-7
TEL　03-3806-8213

院　　長　　松田　好雄（S43）
副 院 長　　大高　京子（S56）